

徳島県農業信用基金協会

1. 徳島県の気候・風土・文化について

徳島県は、四国の東部に位置し、東は紀伊水道に面し、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県に接しています。大鳴門橋、明石海峡大橋が開通してからは、徳島市から神戸、大阪、京都へは自動車で1時間30分から2時間30分の移動圏内になっています。

また、山地が多く全面積4,146km²のおよそ8割を占めており、四国山地が県を南北に分け、県の北側には讃岐山脈が東西に連なり、香川県との県境をなしています。この山地、山脈の間を四国三郎と呼ばれる吉野川が東の紀伊水道へと流れ込んでいます。気候は、北部・西部は瀬戸内気候に属し、南部は温暖多雨の太平洋気候に属し日本でも有数の多雨地域です。吉野川流域の県北西部は、野菜やかんしょの産地、県南部は、早場米の産地があります。

人口は、8市15町1村で73万7千人、JA数は

15となっています。来年は、東京オリンピックの年ですが、徳島はジャパンプルーの染料となる藍の産地として江戸時代から栄えてきました。今も、阿波藍の収穫作業を地元テレビ等が報道しています。

さらに、1200年の歴史がある四国八十八ヶ所霊場巡りでは、徳島阿波は「発心の道場」で1番札所霊山寺から23番札所薬王寺まであり、高知土佐、愛媛伊予、香川讃岐の88番札所大窪寺までお遍路さんは礼拝しますが、閏年は4年に1度の「逆打ち」(88番から1番へ)をすることで3倍の功德があるといわれています。

四国には、八十八ヶ所を巡礼するお遍路さんへのお接待文化が根付いています。

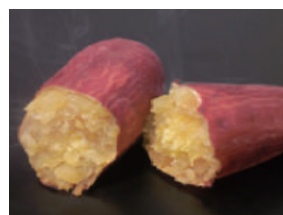


2. 徳島県の農業について

徳島県の平成30年度農業産出額は、981億円(全国33位)、そのうち野菜が最も多く371億円(全国19位)、次いで畜産が265億円(全国31位)となっています。

徳島県の農業産出額上位10品目は米、プロイラー、肉用牛、にんじん、かんしょ、生乳、れんこん、豚、みかん、いちごの順で、これら上位10品目でほぼ6割を占めています。

全国的に有名なものでは、「なると金時」、「阿波尾鶏」、「すだち」などがあります。



なると金時

鮮やかな紅色の皮を持ち、ほくほくとした食感と上品な甘みが人気です。



すだち

全国シェアほぼ100%、さわやかな酸味とすがすがしい香りが特徴です。

阿波尾鶏

地鶏日本一の出荷、脂肪が少なく、適度な歯ごたえの赤みを帯びた肉色で、甘みとコクのあるおいしさ特徴です。



3.徳島県農業信用基金協会の概要

当協会は、役員12名(理事9名、監事3名)うち常勤役員1名、職員6名で総務課、業務課の2課制をとっています。常勤役員1名は、学識経験者としてプロパー職員が就任し、職員は、徳島県信連からの出向者1名とプロパー職員4名、派遣職員1名の構成となっています。

役職員とも公的保証機関としての役割発揮を念頭におき業務運営にあたっています。



徳島県協会の役職員の皆さん

4.徳島県農業信用基金協会の活動

当協会の保証引受は、平成25年度をピークに減少の一途をたどっていました。他保証機関との競合により、特に、JA住宅ローンの当協会利用シェアの落ち込みが著しく、平成28年度には約28%まで落ち込みました。同様にJAマイカーローンも毎年シェアが漸減し、60%を割り込んでいます。

他保証会社は、資本力を背景にしたJAへのキャンペーンを展開し攻勢をかけており、当協会にとっては非常に厳しい状況にあります。このため、役職員一同、非常に危機感を抱いており、当協会ができて競合保証機関ができないこと、地の利を活かした取組を始めました。

まず、住宅ローンや農業資金では、JA担当者とのFace To Faceでの対応を増やすこと。さらに、農業資金は、JAから要請があれば、農家へJA担当者と同行訪問し保証利用推進を行うなどしています。

これにより、JA住宅ローンの当協会利用シェアは、令和元年12月末で52%まで回復しています。

農業資金は、JAバンクによる保証料助成等の施策により保証残高も伸びています。

また、JAマイカーローンにおいては、JAを訪問した際、協会保証はチェックシートの作成に手間がかかる、人事異動で未経験者が着任した場合に慣れるまで時間がかかるなどの意見がありました。この解決策として、業者に開発依頼し、エクセルファイルに必要項目を入力することでチェックシートが印刷作成できる「JAマイカーローンチェックシート作成支援ツール」を県内の全JAへ提供しました。このような取組の結果、保証残高は、前年度末の340億円から今年度は増加に転じる見込みです。

全国で1番小さな協会ですが、役職員一同がワンチームとなり、小さな組織の機動性を活かした業務運営を行って参りたいと考えています。

